

勢山文書 ①「おさしづ」の写し翻刻

三重県伊勢市に所在する勢山分教会（矢納順治会長 蒲生大教会）の方から、教会に保存されていた文書が届けられた。そのほとんどは「おさしづ」の写しであった。その他に、松村吉太郎から広池千九郎宛ての書翰、あるいは、教理を記したのも、若干披見することができる。

勢山分教会は、斯道会の系統であり、河原町一甲賀一蒲生一勢山となる。先に取り上げた近愛分教会は、甲賀の部内であることから、おそらくその「おさしづ」の写しは重なるところがあるかと思われる。ただ、おさしづの写しの体裁から言えば、近愛の方は129丁からなる大部のもの（北野文書も同様）であったが、勢山の場合、この後で明らかになるが、2～3件のおさしづが表紙をつけて綴じられているものが多い。

その折々に綴じられたものなのか。あるいは種本としたものの通りに写し、綴じたものであるのか。その点は明らかではない。しかも筆写年月は明確でない。その意味では近愛の方が時代を遡ることができるかもしれない。そうした視点を留保しつつ、「おさしづ」の写しの翻刻を試みたい。

なお、当時、神宮皇學館教授であり、後に天理中学校長に就任する広池千九郎は、勢山初代の矢納幸吉に導かれている。明治42年のことである。そして勢山の一室に住まいして、神宮皇學館に通っていたと伝えられる。入信の一つの動機として、「自然に勢山会長の誠に感じたから」「私は矢納会長に接触して、その卓越せる精神的感化を受け」と述べている。さらに彼は矢納会長のことを次のように評している。

矢納会長には、元来人を育てる精神が充実している。食堂が狭い時は、自分はただ一人あとに残る。会長だからといって先に食べたりはしない。天理教は親を大切にすると聞かすが、親が子を育てるためには、このように苦心しなければならない。

勢山支教会の矢納会長は、天性はなほ才知に富み、学問上の素養もあり、儒教や心学道話に通じていた。その信仰に至つては実に深遠雄大で、しかもきわめて常識に富んでいましたから、(『伝記 広池千九郎』モラロジー研究所編、375～376頁)

また、矢納会長を追悼するなかに、

会長の信仰は、第一、教理の研究が深かつた事、第二には、その心の修め方が如何にも立派であつた事である。先ずその教理の研究が深かつたと云ふ事は、当時の古い天理教教師としては比較的に読書力があり、心学道話などを読んで居り、それから色々な勉強して、古事記の神代の巻などよく知つて居つて、神代の事だけは中学の教師位はおよばな(か)つた位である。かう云ふ立場から筆先やおさとしなど、神様のお言葉を研究せられて居つて、これか為にちやんと天理教の前途を見抜いて居つた様である。何時でも私にお話があるのに、今日迄、自分の研究を傾けて聴いて貰ふ程の信者に出会せなかつたと云はれて居つた位である。(略)

この勢山の教理を勢山の後を継ぐ人々の為に、書き残して置きたいと思ひますと申した所が、会長の云はるゝには、それも甚だ必要の事ではあれど、人間の作った書物には誤りも出来れば、遺漏もある。神様の帳面には、一切皆付いて居るから、(広池博士談「矢納勢山支教会長の出直し」『道の友』大正3年2月号)

と記されている。学者を導いた初代の教えを説く内容がどのようなものであつたか。大いに興味が惹かれるところであるが、この話のとおり、そうしたものは遺されていなかった。教理史をみていく上で、貴重な資料になつたであろう、と思われるだけに、若干、惜しいことと思われた。

さて、どのような文書が遺されていたか、というと、先に述べ

たように、おさしづの写しがほとんどである。ただ、教理文書とおぼしきものが二冊あり、他にお書き下げの写し一枚。松村吉太郎から広池千九郎宛の手紙が数通ある。

●教理文書（2冊）

・「子を神様ヨリ頂ク訳」

・「大正元年拾壹月写之 萬世鏡寶袋 第一號」

●おさづけさしづ（おかきさげ）写し（1部）

「廿七年三月十三日」

●借用書（1枚）

●おさしづ写し（4部）

(1)「明治三十一年十二月三十一日旧十一月十九日 午後二時頃 こくげん御はなし」

(2)「明治三十三年三月十六日 内山の材木地所買求メ御願」

(3)「明治三十三年八月四日日本席御諭後居宅ノ臺所ニテ教長様初メ梅谷山中飯降氏もおりし處へ増野氏二十年祭祭場の絵図面を両閣下様へ御伺イ夫レへ協議の折柄にわかには刻限のおさしづ」

(4)「明治四拾一年一月廿日 平野権蔵先日の御差図の中かとのめ處ふしんに付御願」

●おさしづ写し（綴じてあるもの）(49冊)

(1)「身上御伺」（抜粋してあるもの）

・「明治廿一年九月九日午前七時旧七月廿三日 京都会長御伺」

(2)「明治廿年五月廿五日刻限夜十時廿分 東京ニ於テ普通教会御免ヒ下ルヤ御伺」

(3)「御刻限」

・「明治廿八年旧八月廿日午前八時」

(4)「明治二十九年十月十五日 梅谷四郎兵衛様身上御願」

(5)「三十二年三月 中村長太郎事情

明治三十年 峯畑氏 事情

同家内

〃三十一年十月 東会支教事情

〃 うねヒ出張事情

〃 大和高市森熊事情

〃 十一月 紀陽支教会長事情

〃 〃 〃 会計係事情

〃 〃 〃 大勢支教会事情

〃 十二月 秋津支教会事情

〃三十二年一月城嶋分教会事情」

・「明治三十年 大和國見田村峯畑為吉長三郎三才身上ひせん二付」

(6)「明治三十拾壹年ヨリ三十拾四年四月迄 京都分教会身上事情ヨリ刻限〇事情御さしづ澤谷源治郎君本部へ御引立ノ件及ヒ三分教会分りの事情 副会長へ分教会会長に引直しの事情 神様ヨリ〇右事情ヲ拾度に御さしづ」

・「明治三十拾一年十月七日 川原町分教会副長澤谷徳治郎身上御願 廿九年」

※おさしづ写しではないものが最後の方の頁にあり。

・「辻忠作様の御咄」

・「教祖様御両親御兄弟五人」

(7)「明治三十拾壹年九月拾八日 梅谷様身上御願 同三十拾壹年拾壹月四日 増野様身上ヨリ御咄」

・「三十一年十一月四日 増野様身上ヨリ御咄シ」

(8)「明治三十拾壹年二月 前川菊太郎氏」